

干ばつなどのストレスに強く、
丈夫な中性品種。

めいりよく



丈夫でつくりやすい品種です。多収で、香味は清涼感がありさわやかです。育成後14年、順調に栽培面積を伸ばしています。

品種の来歴と特徴

「めいりよく」は、茶業試験場（現独立行政法人野菜茶業研究所）で育成されました。登録は昭和61年です。

摘採期は中生ですが、厳密には「やぶきた」より1〜2日早いです。樹勢が強く、新芽の生育がおう盛で、出開きにくい性質がありますから、摘採適期を逃さないように注意して下さい。

品質の特性

芽の伸び、摘いがよく、安定してかなりの多収が期待できます。品質は、育成当時は、うま味が少なく、味が薄いのではと心配されましたが、逆にそれが、くせがなくなすすきりとしていると、現代の嗜好に合っており、いい方に評価されています。香りもさわやかで、色沢も明るくてきれいです。

栽培上の注意点

樹勢が強く、分枝数が多く、樹姿は中間型です。成圃化が早く、仕立てがしやすい、つくりやすい品種です。耐寒性も強いですが、重要病害である炭そ病、輪斑病に強く、これらの病気に対する防除はほとんど必要ありません。幼木期に赤焼病が発生することがありますが、成木ではほとんど発生しません。

加工上の注意点

ややみる芽で摘採すると形状もよくよれて内質も良くなりますが、適期を過ぎると極端に品質が低下しますので、さらに1〜2日早めの摘採をおすすめします。「めいりよく」は、もともと多収なので、早めに摘採しても、やぶきた以上の収量を確保できます。

普及および栽培適地

静岡県での栽培面積は26・8ヘクタールです。四国で増えたのは、一九九三年の干ばつがきっかけです。香川県では、干ばつの時に「めいりよく」が強かつたということで、それ以降積極的に導入をすすめており、栽培面積は、13ヘクタールに広がっています。高知県では、一九九八年に推奨品種に指定されて、高冷地の東津野村などで7ヘクタールが栽培されています。沖縄県でも導入されています。

苗木の入手方法

栽培を希望する方は、地元の農協等を通して各県の経済連など苗木生産団体へ申し込んで下さい。

命名の由来

めいりよくは漢字で書けば「若緑」です。茶のことを中国では若（めい）とも言います。品種特性の明るい緑という意を含めて命名されました。

| 品種名 | 育成年 | 種苗登録の有無 | 育成場所 | 来歴 | |
|-------|------|---------|------|------|--------|
| | | | | やぶきた | やまとみどり |
| めいりよく | 1986 | 有 | 茶試 | やぶきた | やまとみどり |



| 早晚性 | 樹姿 | 樹勢 | 収量性 | 品質 | | | 耐寒性 (赤枯れ) | 耐病性 (炭そ病) |
|-----|----|----|-----|----|----|----|--------------|--------------|
| | | | | 色沢 | 香氣 | 滋味 | | |
| 中生 | 中間 | 強 | 多 | 上 | 上 | 上 | 強 | 強 |